

# 東海村の概要

## 位置

東海村は、茨城県の県庁所在地である水戸市の北東約15kmに位置し、東京からは約110kmの距離にあります。

東は太平洋に面し、西は那珂市、南はひたちなか市、北は久慈川をはさんで日立市と接しています。

村域は、東西、南北とも約8kmでほぼ円形に近く、総面積は約38km<sup>2</sup>となっています。

村内には、JR常磐線東海駅や常磐自動車道東海スマートインターチェンジがあり、国内外に就航路線を有する茨城空港へも、高速道路を利用し約45分の距離にあることから、首都圏をはじめ、各地への利便性の高い交通アクセスが確保されています。



## 地勢

久慈川の南側と真崎浦、細浦などの低地は沖積層で、水田地帯となっています。一方、台地は洪積層で、畑地と平地林が広がり、東へ緩やかに傾斜したその先端が砂丘となっています。なお、砂丘は現在、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（原子力科学研究所・核燃料サイクル工学研究所）やJ-PARC（大強度陽子加速器施設）、日本原子力発電株式会社（東海発電所・東海第二発電所）などの敷地として活用されています。

## 沿革

明治22年の自治制施行により村松村、石神村となった2村が、昭和30年3月31日に合併し、東海村となりました。

合併後は、昭和31年の日本原子力研究所の設置決定を皮切りに、研究機関や企業が集積し、最先端の科学技術とともに歩みを進めてきました。

また、「東海まつり」をはじめとする新旧住民の交流や、昭和56年に姉妹都市盟約を締結したアメリカ・アイダホフォールズ市との交流などを通して、科学技術とさまざまな人や文化が融合した、活気あふれるまちを形成しています。

平成24年には「東海村自治基本条例」を制定し、誰もが協働し参画できる村民による自治のまちを目指し、誇りを持って、安全かつ安心して暮らすことのできるまちづくりを推進しています。

歴史	昭和30	31	41	48	54	56	平成3	11	15	16	20	21	24	令和1	
		石神村・村松村の合併により東海村が誕生	日本原子力研究所設置決定	日本原子力発電(株)東海発電所営業運転開始	水戸対地射撃場（現在のひたちなか地区）返還	第一回東海まつり開催	米国アイダホフォールズ市との姉妹都市盟約締結	「東海十二景」選定	常陸那珂港北ふ頭に定期航路開設	常陸那珂火力発電所1号機運転開始	「環境自治体会議東海村会議」開催	「介護保険推進全国サミット」開催	常磐自動車道東海スマートインターチェンジ開通	東海村自治基本条例制定	いきいき茨城ゆめ国体2019開催 （本村は昭和四十九年以来となるホッケー競技会場に）

東海まつり

アイダホ締結

いきいき茨城ゆめ国体